

修練会の気になる 1冊 (ほん・本・ブック)

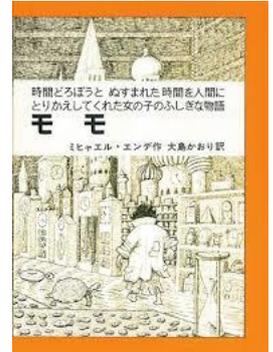
公益財団法人豊島修練会 令和2年10月号 (通算第47号)

子どものほん (子ども、小学生&中学生)

ミヒャエル・エンデ作・絵 大島かおり訳「モモ」 岩波少年文庫版 本体 800円

あなたは、「時間」について考えたことがありますか。「時間とは何か？」と聞かれたら説明できますか。

この物語は、時間どろぼうに時間をぬすまれてしまいました。モモと言う女の子が、ぬすまれた時間を、人間にとりもどしてくれるという話です。少し難しいかもしれませんが、時間の大事ですし、人と人のつながりも大事だということが分かると思います。お家に人と一緒に読んでみてください。



大人の本 (パパ&ママ、ジジ&ババなど)



月刊誌「東京人 tokyo jin 9月号」 都市出版 定価 950円 (税込)

東京に住んでいながら「東京のことはあまりを知らない」と言う人が少なくありません。そこで、今月は、東京のことだけを毎月特集している本書を紹介します。

今月号の特集は「江戸東京エリア散歩」で、藤沢周平作品を旅する「地図から浮かび上がる、光と影のリアリティ」、漱石先生と東京市電に乗る、「都内「最後の秘境」吹上御苑の四百年を歩く」、「江戸の範囲はどこまでなのか」、「下落合、椎名町界限、地元の町内地図が呼び覚ます、幼き日の記憶」など、面白体験をすることができる。

また、連載の林家正蔵師匠の「ちょいとごまんなさいよ、四時からの悦楽 (今月号は、代々木上原の「按田餃子」で、昼間から生ビール片手に餃子を堪能する話)」を楽しめる。

学校の先生のブック (小学校・中学校の先生)

大前研一著「新・仕事力「テレワーク時代」に差がつく働き方」小学館新書 本体 820円

本書は、COVID-19の感染予防をきっかけに普及したテレワークについて、経営コンサルタント大前研一氏が、働きかたについて持論を展開したものである。

内容は、前書き「目標が見える化」できるかどうかのカギだ。1章・君たちはどう働くか一問違いだらけの「働き方改革」、2章・「エクセレント・パーソン」の条件—仁ザ戦略と教育の在り方、3章・校務員こそ「働きかた改革」を一国を貧しくしているのは誰なのか、おわりに「働き方」は自分でできる、という構成である。企業の働き方を述べたものであるが、これをヒントに、学校の働き方について前向きに考えたい。(積読のH.K)

★備考★話題提供のために紹介しているだけで、購読を勧めるものではありません。

[成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」「メッセージ」「Q&A」「気になる1冊」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「成美教育文化会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。



